

編集後記

1990（平成2）年、当時看護専門学校が紀要を刊行することは極めて稀な頃、元教務主任福岡笑子先生他諸先生方のご判断のもと、「教員自らが研鑽を積み、より良い看護教育を目指したい」という願いと将来の本校の看護学教育の発展に向け『東京医科大学看護専門学校紀要』は創刊されました。第1巻から国際標準逐次刊行物番号（ISSN）へ登録がなされ、その後は論文の質向上に向け、早い段階で外部査読者によるご指導が加わりました。第7巻では千葉大学名誉教授 内海滉先生、第8巻から12巻までを筑波大学名誉教授 辻功先生、第13巻から25巻（最終号）までは、現松蔭大学教授 湯澤八江先生に実に13年間という長きに渡るご指導を賜りました。また第21巻から全ての研究が東京医科大学倫理審査委員会の審査を受ける事になりました。このような先生方のお力添えと大学関係者のご協力のもと、本校の紀要は内容の充実発展とともに25年間の継続発刊に繋がられたことを心より感謝申し上げます。

その紀要も、本学としての看護教育の発展的な組織改革に伴い、2017（平成28）年3月の看護専門学校閉校とともに25巻となる今号でその歴史を閉じることとなりました。一抹の寂しさの中にも、今は東京医科大学看護専門学校の25年間の教育実践活動が研究的取り組みとしてこのような形で残せた事を誇りとして、紀要の存在の意義を噛みしめております。このような基盤を創って頂いた諸先生方、そして多忙な中、紀要に投稿をして頂いた諸先生方、誠に有難うございました。

さてこの25巻は、最終号としての特別編成としました。『論文編』では、最後の任を担う教員全9名が研究成果や今までの実践報告等を論文にまとめ、また元専任教員からは研究論文の投稿、さらに『特別寄稿：紀要最終号に寄せて』の執筆のご協力も頂きました。お陰様で当初危惧した事とは逆に多くの論文が集まり、今までにない頁数の紀要となっております。最後には、第1巻（創刊号）から第25巻（最終号）までの『総目次』も掲載しました。

これらの編集作業を行う中、25年間のその時々学校の様子や教員の姿、抱えていた課題などが鮮明に蘇ってまいりました。第16巻から21巻の紀要には、本校学生の看護研究論文（グループ研究）も掲載されており、改めて多くの人々による成果物であることを実感しました。先生方の寄稿文の中には、本校での紀要への参画が自分自身の現在の活躍の源になっているとの有難いお言葉も多く、本校紀要が果たしてきた意義を改めて実感し幸せな気持ちにさせて頂きました。

本校の紀要には、私達教員が積み重ねてきた25年間の看護教育活動が収められており、今後も看護教育の質向上のために教育実践の貴重な歴史的資料としての役割を果たしていくものと信じております。私達は今後も、この後の各人の活動の場でこの経験をさらに発展させ、看護教員に求められる研究能力向上に向け、さらなる自己研鑽に努めて参りましょう。

（文責：副学校長 峰村淳子）

（※ 東京医科大学看護専門学校紀要の1巻から25巻に収録中の全論文は、東京医科大学図書館ホームページの『学術リポジトリ』からどなたでもいつでも検索できます。）

東京医科大学看護専門学校紀要

第25巻 第1号

発行日 2016年3月31日

発行者 東京医科大学看護専門学校

〒160-8402 東京都新宿区新宿6-1-1

電話 03-3351-6141 内線 308, 310

編集者 東京医科大学看護専門学校紀要編集委員会

塚田有美、峰村淳子

印刷者 株式会社 研恒社
